

# 「ウチ」と「ソト」をつなぐ授業のコツ

## 準備 のコツ

Pre-Activity

### 準備の教材の使い方

教室の「ウチ」での準備は、「ソト」でどんな活動をするかによって異なります。教室の「ソト」でする活動には、表現の型が有効に使えるもの（Show&Tellや、発表、クイズなど）もあれば、型どおりにいかないもの（街で知らない人に話しかける、電話をかける、ホームステイでの会話など）もあります。

### 練習のおすすめは「いきなりロールプレイ」

例えば、街での会話は、教室で意図したようには運びません。準備で紹介している会話例はそのまま覚えて使える型ではなく、あくまでも例であり、ヒントです。会話の表現を覚える練習より、まずタスクを説明して、いきなりロールプレイをさせてみるのがおすすめです。

↓ ロールカード例（地域オリエンテーリング）

いま  
今 なんばに います。  
チェックポイントへの  
みち き  
道を 聞いて ください。  
You are now in Namba area.  
Ask someone how to get to the  
target point.

に ほんじん しゃしん  
日本人に グループ写真を  
とって もらって ください。  
Ask someone to take a photo of  
your group.

### 会話例の使い方

会話例を示したページはその後で、より適切な言い方の確認に使うことができます。縦半分に折って、ペアでパート練習をしたり、会話部分をカードにしてマッチングしたり、日本語部分をホワイトで消し、残った英訳部分を見て日本語で何と云うか考えたりする練習ができるようレイアウトを工夫しました。

## 教室での指導ポイント

### 「だいじょうぶ、きっとできる」という気持ち

教室の中での事前練習は本番で挫折をしないよう行うものですから、挫折を回避・解消できるストラテジーと自信をつけさせることが目的です。

### 軽い挫折を経験させる

ロールプレイの相手は教師が務めます。教師は自然なスピードで、語彙や文型のコントロールをせずに相手をします。活動によっては、「年配の人」や「子ども」の話し方を見せる必要もあるでしょう。時には、わざと不親切な相手になって、話しかけられても無視したり、依頼を拒否したりしてみせます。そうすることで、答えが聞き取れないときにどうしたらいいか、期待した反応が返ってこないときに、なぜなのか、どうすればいいか、学習者が事前に考えてみるすることができます。

### 解決方法は自分たちで見つける

街でインタビューする場合など、「答えはみんなで聞く」「ほかの人にまた聞く」「暇そうな人を見極めて話しかける」といった挫折回避ストラテジーや、言葉の不足を補うために有効な演出のアイデア（例えば、写真をとってもらいたい時にカメラを差し出しながら言う、など）も、学習者から出てくることが多いものです。自分たちで発見したストラテジーはお仕着せではないので、確実に使えるものばかりです。

### 日本語は間違えても態度は間違えない

日本語は多少の間違いがあっても伝わる範囲ならOK。むしろ、話しかけるタイミングや態度、「あのう」や「すみません」などの前ふり、終わる時にお礼をいい忘れる方が問題です。感じがよければコミュニケーションに成功できる、という確信が話しかける勇気につながります。日本語の修正は伝わる程度にとどめ、態度面に重点をおきます。声のかけ方、相手との距離のとり方、表情、身振りなど、お互いに観察して指摘し合います。悪いマナーを教師が演じて見せると、笑いが起こり、すぐにわかってもらえます。

## まとめ のコツ

Post-Activity

### まとめの教材の使い方

まとめ教材の多くは、**Questions** → **Example** → **Worksheet** という構成になっていて、体験したことを報告するタイプです。報告の形は「話し合い」「口頭発表」「レポート作成」などさまざま。クラスのニーズに合わせて選べます。

#### 「話し合い」でまとめる場合

まとめ活動のタイプが「話し合い」なら、**Questions** を使ってペアやグループで進められます。メンバーチェンジをして、情報交換の輪を広げていったり、グループで話し合った結果わかったことをクラス全体に向けて報告したりします。気づいたことや疑問に思ったことを取り上げて、ディスカッションに発展させてもよいでしょう。

#### 書いてまとめる場合

「口頭発表」や「レポート作成」の場合は、各自 **Questions** に答える形で **Example** を参考に発表原稿やレポートを作っていくことができますが、それだけでは型どおりになりがちです。書く作業に入る前に、クラスで体験をシェアする「話し合い」の機会を持ったほうが、内省ができて書く内容も深まります。

### 教室での指導ポイント

#### 文型練習ではなく、表現練習

**まとめ** の目的は、体験したこと、考えたことを「日本語で表現してみる」ことです。まとめ活動に役立つ文型は **Questions** のページに提示されていますが、これは教師が導入するものというより、学習者が必要に応じて利用するものです。

#### **Questions** は発展形

まとめる中で、学習者の側からも、さまざまな疑問や感想、意見などが出てきます。それらを臨機応変に **Questions** に加えて、「話し合い」や「レポート作成」のポイントとして組み込んでいくといいでしょう。